岩手の生涯学習物語（展開期編）

第十一話　「生涯学習推進のための基本的な考え方」の巻

元岩手県教育委員会事務局社会教育課長　　高　橋　　寛

1990 年（平成 2 年）岩手の生涯学習を大きく発展させる出来事がありました。生涯学習推進「県民のつどい」の開催です。今回はそのお話です。

「生涯学習フェステバル」

1989 年（平成元年）社会教育課の電話が鳴った。「生涯学習フェステバルを見に来ませんか。」文部省寺脇研社会教育係長（のち文部省審議官、現評論家）からのお誘いの電話である。「ピアノ百台の演奏もありますよ。」興味尽きない誘いである。この電話がことの始まりであった。

「県民の集い」、その構想

早速、幕張メッセに飛んだ。なるほど、スケールの大きいイベントである。数々の発見があった。帰りの車中、岩手の生涯学習のイベントの構想を固めた。

その１，生涯学習のキャッチコピーに「いつでも、どこでも、だれでも」に「なんでも」を付け加えること。

その 2、この生涯学習の集いを県民の学習活動発表の場とするとともに、生涯学習推進の場とすること。

その３、年齢という時系列を立て軸に、県内各地域を横軸に県民の学習活動を網羅的に取り上げること。

その４，この集いを県内各地で開催し生涯学習推進の機運を一気に盛り上げることなどである。

「県民のつどい」、その内容

こうして生涯学習推進「県民のつどい」は「いま広がる、岩手の生涯学習～人生 80 年代、生きがいの創造」をテーマに、1990 年（平成 2 年）10 月 30 日（火）岩手県民会館で開催されたのである。

その内容は次のとおりである。

１．表彰
　「学びの体験記」入賞者表彰
　最優秀賞受賞者畠山美恵氏の発表
　「新聞文芸欄に活路を見つけて」

２．発表「学ぶ喜びを、今ここに」
　ハーモニカ同好会（盛岡市）
　宮野目保育園子ども鹿踊り（花巻市）
　合唱「ユネスコ・ペ・セルクル」（花巻市）
　太極拳同好会（都南村）
　創作ダンス「ラウンドダンス・リーフパイ」（岩手町）
　少林寺拳法（盛岡市）
　崎浜海の子太鼓（三陸町）

３．シンポジュウム「ゆとりの人間学～人生知的好奇心の発露～」
　登壇者　小笠原善三郎（花巻市）
　　有原　芳枝（岩泉町）
　　吉田　精一（盛岡市）
　コーディネーター
　　小野寺　令（県社教委員）

４．講演「大海原にかけた夢」
　講師　冒険家　片岡　佳哉

「県民のつどい」、その反響

反響は大きかった。岩手の生涯学習、初めてのつどいでもあって、何をどうするのか当初から関係者の関心が高かった。参加者も 758 名を数え県民会館中ホールが溢れた。

その後、このつどいは教育事務所単位に開催され、つどい形式の生涯学習フェステバルは急速に県内に波及し、市町村でも開催されるなど、本県の生涯学習は急速に発展していったのである。

県民のつどい反省会で、担当の菊池明敏主任社教主事兼課長補佐が「社会教育は一発勝負、失敗は許されない。ましてや本県初めてのイベント、プレッシャーも一入でしたが、多くの方々のご協力で成功したことを喜びたい」と挨拶し、関係者のねぎらいの拍手の中で感涙にむせんだ姿が今も鮮明に思い出される。